

## ベトナム現地情報（2022.05.23）

ジャパン証券 北山亨

### 第 21 回「SEA Games に行ってみた」

ベトナムのハノイ市を中心に、東南アジアのオリンピック「東南アジア競技大会（SEA Games）」が開催されています。筆者は5月18日（水）にミーディン国立競技場で行われた男子、女子の4×400メートルリレーの決勝に行ってきました。今回は現地に行ってきた当日の様子をお伝えできればと思います。

### SEA Games は、コロナからの復活の象徴

まず SEA Games とは、東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟する国（+東ティモール）が参加して行なう大規模な競技大会です。2年に1回開催されており、今大会で31回目を数えます。大会は5月12日から5月23日まで行われています。当初は昨年11月に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって延期していました。競技数は37種目あり、海外から多くの参加者が集まるため、大会の開催はベトナムが新型コロナウイルスから復活したことを示すものであると思われます。

ちなみにベトナムが SEAGames に参加したのは、89年大会からです（73年大会まで南ベトナムが参加していました）。当時の獲得メダル数は9ヶ国のうち7位と下位でした。しかしその後ベトナムは経済成長とともに2000年に4位、2005年に3位、2009年、2019年に2位と順位を上げています。自国開催の今大会では、ついにメダル数で1位となりました。



大会公式キャラクターのサオラ（ベトナムとラオスの森林に生息する珍しい動物です）

公式グッズの販売ブースは盛況でした。公式グッズは高価格に設定されており、マスコットは450,000ドン（およそ2,480円）しました。※1ドン=0.005511円（2022年5月23日時点、ブルームバーグ参照）

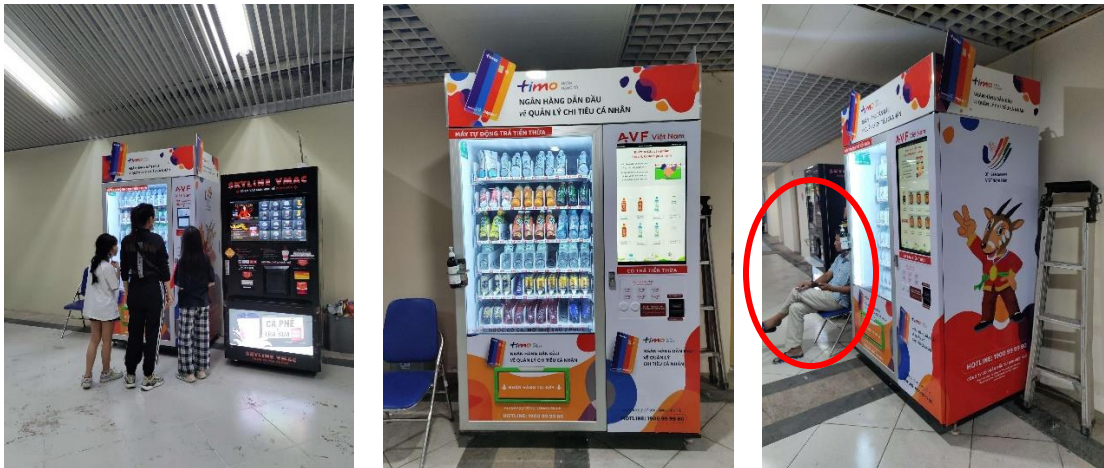
私の前に並んでいた外国人のおじさんが公式グッズをたくさん買っていきましたが、このSEA Gamesは、観光業の起爆剤となることも期待されています。ベトナムでは4月末の4連休で国内の観光客数がおよそ500万人に上っています。

スタジアムでは観戦チケットを求められることはなく、誰でも無料で観戦できます。しかし一部競技（サッカーの準決勝以降など）は、チケットを事前に購入する必要があります。



左：男子4×400mリレー。「ヴィエトナム、ヴィエトナム」の応援は大迫力。

右：女子4×400mリレーの表彰式。国歌斉唱のため、全員直立しました。



左：自動販売機（ドリンク、ちょっとしたお菓子 OREO が購入できます）で立ち止まる親子。買おうとしましたが、そのまま立ち去って行きました。右：自動販売機のスタッフ。

またスタジアムには、ベトナムでは珍しい自動販売機が多く設置されていました。興味深かったのは、自動販売機の隣には小さな椅子が置いてあり、スタッフが座っていたことです。これは、ハノイメトロが開通した際に駅員さんが自動改札機についていたことによく似ています。

筆者も自動販売機は日本で使い慣れていたはずでしたが、タッチパネルの操作に手惑い、最終的にスタッフに手伝ってもらいました。

実は、ハノイ市は2025年までに主に市内の公共施設に自動販売機を設置することを計画しています。というのも市内では行商人を見かけることはよくあり、当局は小売業を近代化を目指しています。ベトナムのライフスタイルが、このSEA Gamesを通して変わっていくかもしれません。

SEAGames の主なスポンサー企業、（ ）は上場企業。

企業	代表的なスポンサー企業
サイゴンビール (SAB)	ベトナム最大のビールメーカー
VNPT	国営の最大手の通信サービス企業
BaoViet Insurance	バオベトホールディングス (BVH) 傘下の保険会社
Vietravel Airlines	ベトトラベル (VTR) 傘下の航空会社



写真左：また22日の夜には男子サッカー決勝が開催され、ベトナムが優勝しました（ちなみに21日にはサッカー女子が3大会連続7度目の優勝）。国旗や楽器を持った若者は、バイクや車で街を練り歩き、優勝した喜びを共有しました。写真右：旗売りのおじさん

※写真は全て JSI 撮影

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。